

(様式3)

パブリックコメント手続の実施結果について

1 案件名

平塚市学校給食基本構想・基本計画(素案)

2 案件の概要

平塚市教育委員会では、「平塚市立中学校給食の基本方針」を踏まえ、中学校完全給食の早期実現、老朽化した東部・北部共同調理場の建替え等をはじめとし、本市における持続可能な給食運営及び新たな共同調理場整備についてまとめた「平塚市学校給食基本構想・基本計画(素案)」を作成しました。

3 募集概要

(1) 意見の募集期間

令和2年9月8日(火)～令和2年10月8日(木)

(2) 意見の提出方法

持参、郵送、FAX、電子メール

4 実施結果

(1) 提出意見数

個人から	6人	19件
団体から	2団体	6件
合計	8	25件

(2) 意見内訳

項目		件数(件)	
はじめに		1	
2 基本構想	(1) 学校給食の現状と課題	イ 小学校給食の現状と課題	2
		ウ 中学校給食の現状と課題	1
		エ 食育の取組	1
	(2) 調理場整備の考え方	全体	1
		ウ 栄養教諭及び学校栄養職員の配置	1
3 基本計画	(1) 取組方針の具体的な内容	オ 考え方のまとめ	1
		ア【方向性1】児童・生徒の成長を支える完全給食の実現	1
		イ【方向性2】安全・安心でおいしい、適温給食の実現	5
		ウ【方向性3】学校給食を活用した、更なる食育の推進	3
		エ【方向性4】未来に続く安定的な給食提供の実施	4
	(2) 新たな共同調理場等の整備計画	イ 留意点	1
		オ スケジュール	2
その他		2	
合計		26	

複数項目にまたがる意見も含まれているため、(1) 提出意見数と合計が異なります。

(3) 意見への対応区分

項目	説明	件数(件)
ア：反映	意見を受けて計画案等を修正したもの	
イ：反映済み	既に計画案等に記載されているもの又は既に対応しているもの	1
ウ：参考	取組を推進する上で参考とするもの	24
エ：その他	意見募集の範囲と異なるもの、反映が困難なもの、質問など	
合計		25

5 意見対応表

番号	項目	市民意見の概要	市の考え方	対応区分
1	はじめに	調理場自校方式・「親子方式」に関する言及が一切ない。「1場集約・単独維持」の方針はやむを得ないとしても、「自校方式」「親子方式」の教育的効果を評価し、将来検討の遡上にのせる可能性を言及してほしい。	<p>本基本構想・基本計画につきましては、持続可能で効率的な給食運営の実現や中長期的な視点に立った取組に関する基本的事項を示したものとなっています。</p> <p>本市としても自校方式が最も望ましい方式であることは平成 29・30 年度に行った平塚市中学校昼食検討委員会の報告書の中でも指摘をされており、承知をしておりますが、持続可能で効率的な給食運営を実現していくために、調理場を集約しつつ、現状の7校については当面維持していくこととしております。</p> <p>なお、学校に設置した給食室から他校へ給食を提供する親子方式につきましては、現状の単独調理場では対応が難しく、また整備する上では、各学校施設とみなされる単独調理場とは異なり、親子方式は工場の扱いとなるため、本市においては各学校の敷地面積及び用途地域の状況から現実的に整備が難しく、本基本構想・基本計画では言及をしておりません。</p>	ウ 参考
2	2(1)イ (ア)a 単独調理場	現在稼働中の単独調理場のドライシステムへの改修の検討をさらに研究して、より長く自校方式が稼働できるようにしてもらいたい。	単独調理場につきましては、当面維持していくこととしております。また、ドライシステムへの改修は調理能力の低下や給食提供を停止する必要があるため、現時点では困難と考えておりますが、現在の学校給食衛生管理基準を満たすための改修等について研究してまいります。	ウ 参考

3	2(1)イ (オ)アレルギー対応	<p>完全給食は全員喫食が原則ですが、アレルギー疾患のために給食を食べられない場合、弁当持参が認められていると聞きます。また市内には外国にルーツを持つ方々も多く生活されている中で、宗教上等の理由で給食を辞退し弁当持参するケースもあるとのこと。新共同調理場整備方針に対し、中学校給食実施には反対ではなくても、給食ではなく弁当持参を希望する声は少なからずあります。アレルギー等の理由ではなくても、希望者は弁当持参ができるよう、柔軟な対応を検討していただきたいと思えます。</p>	<p>小学校給食では、アレルギーや宗教上等の理由で給食が食べられない児童につきましては弁当持参を認めておりますが、全員喫食が基本となります。</p> <p>中学校給食につきましても、小学校給食と同様の運用とし、安全・安心な給食の実現を目指します。</p>	ウ 参考
4	2(1)ウ (イ)日課と昼食時間の現状	<p>昼食時間の延長・食育実践は、全国の中学校給食実施の例を調べれば難しい問題ではない。</p>	<p>食器・食缶方式による中学校完全給食を実施している各自治体の事例から、現状の昼食時間を延長する必要があると考えております。学校の日課は各学校において決められておりますので、必要な昼食時間が確保できるように、各中学校に適切に情報提供等を進めてまいります。</p> <p>また、食育についても各自治体の実施事例等を踏まえながら、中学校における具体的な取組を今後研究してまいります。</p>	ウ 参考
5	2(1)エ 食育の取組 (7~10行目)	<p>子どもたちの食育について、「心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるもの」とありますが、私は家庭の味で自分の子どもを育てたいと考えています。</p> <p>現代には添加物が溢れています。調味料一つにしても安心な物を選択するのは難しくなっています。</p> <p>中学校給食を廃止にしてほしいとは思っていませんが、せめて給食かお弁当かの選択性にしてください。藤沢市ではデリバリー方式の給食と持参弁当の選択制にしています。平塚でもぜひ選択制にしてください。事情がありお弁当を用意することが難しい家庭があるのも理</p>	<p>小学校給食では、アレルギーや宗教上等の理由で給食が食べられない児童につきましては弁当持参を認めておりますが、全員喫食が基本となります。</p> <p>中学校給食につきましても、小学校給食と同様の運用とします。</p> <p>小学校給食の食材については、なるべく添加物の少ないものを選定しており、中学校給食においても同様に配慮し、食材の選定を行い、安全・安心でおいしい、児童生徒に喜ばれる給食の提供を目指します。</p>	ウ 参考

		<p>解しています。しかし、食にこだわりがありお弁当を持参したい家庭があるのも理解してほしいです。</p> <p>選択制であればどちらの理解も得られるのでは、と思います。システムを導入するのは大変だとは思いますが、実際に導入している地域もありますし議論する時間もまだまだあるはずです。ぜひとも宜しく願いいたします。</p>		
6	2(2)調理場整備の考え方	<p>図表2-1-24 調理場整備案一覧に「共同調理場・親子方式」を入れ、再検討を提案する。</p> <p>共同調理場建設予定地は市の東のはずれであり、西部の土沢中学校には遠く、保温が十分ではないと思われる。さらに複数の調理場で調理すれば、食中毒など発生しても市全体の中学校への拡散を防止できる。</p>	<p>共同調理場建設予定地から遠い西部の小・中学校については、近隣の小・中学校と比較し、給食の配送に時間を要することは課題として認識しておりますが、保温性が優れた食缶を導入することで、冷たいものは冷たく、温かいものは温かい、適温給食の実現が可能と考えております。</p> <p>また、新たに整備する共同調理場は、HACCAP に適合した高度な衛生管理を実現する施設とし、食中毒を発生させないことがまず第一となります。さらに、市全体の給食が止まることがないように、小学校と中学校で衛生管理区画を分けたり、献立の異なる複数の調理コースを設定するなど、対策を講じることとしております。</p> <p>なお、学校に設置した給食室から他校へ給食を提供する親子方式につきましては、現状の単独調理場では対応が難しく、また整備する上では、各学校施設とみなされる単独調理場とは異なり、親子方式は工場の扱いとなるため、本市においては各学校の敷地面積及び用途地域の状況から現実的に整備が難しく、再検討はしないこといたします。</p> <p>「Hazard Analysis and Critical Control Points」の略語で、危害分析(HA)と重要管理点(CCP)による衛生管理の方法です。食品加工の工程の中で、たとえば加熱によって食中毒菌を滅菌するなどの衛生管理上重要な工程を重点的に管理することで、すべての最終製品の安全性を保障しようという考え方です。</p>	ウ 参考

7	<p>2(2)ウ 栄養教諭及び 学校栄養職員 の配置</p> <p>3(1)ウ 【方向性3】 学校給食を活 用した、更な る食育の推進</p>	<p>現在小学校への栄養教諭の配置は、単 独調理場には栄養教諭4人+学校栄養 職員3人、共同調理場には栄養教諭1人 +学校栄養職員5人が配置されていま すが、15,000食を調理する新調理場にお ける法的な配置数は3人と少なくなり ます。素案では、そのことを食育上課題 であると指摘されており、「人材確保 に向けた取組を進めるとともに、マンパ ワーが少ない中でも食育が展開できる ように、栄養教諭を中核としたネットワ ーク等の見直しもあわせて進めます」と あります。</p> <p>栄養教諭の果たす役割は大変大きいこ とから、基準に縛られることなく栄養教 諭(学校栄養職員)を拡充し、食育を推 進してください。</p>	<p>栄養教諭等の配置は、神奈川県が国の基 準に基づき配置するものと、神奈川県自 身の基準により加配するものなどがありま す。また、学校栄養職員については市独自 での配置も行っております。</p> <p>本基本構想・基本計画に記載をしており ますが、新たな共同調理場を集約すること により、中学校完全給食を開始するにもか かわらず、国の基準による栄養教諭等の配 置人数が現状よりも少なくなってしまう ます。</p> <p>学校栄養職員及び栄養教諭は、給食運営 や食育に必要な不可欠な人員となりますの で、適切にその人員を確保できるように、 国・県への働きかけ等を進めてまいりま す。</p>	ウ 参考
8	2(2)オ 考え方のまと め	<p>現在7校ある単独調理場は継続する 方向ですが、今後施設の老朽化や児童生 徒の減少を踏まえて、新調理場からの受 配校に組み入れることも検討するとあり ます。身近なところで調理が行われて いる様子を目にするのできる単独 調理場は、食育上も非常に有効で他には 代えがたい良さがあります。効率的な運 営という面から言えば理解できないこ とではありませんが、身近に食を感じる ことのできる環境づくりのため、栄養教 諭の配置の拡充等と併せ、慎重に検討さ れることを希望します。</p>	<p>ご意見にありますように、単独調理場の 食育における効果については認識してお りますので、単独調理場につきましては、 当面維持していくこととしております。</p>	ウ 参考
9	3(1)ア (イ)取組方針 1-2 a 教 育現場の声を 踏まえた中学 校の整備	<p>化学物質過敏症のため、工事による健 康被害の心配があります。通学期間中 に行われる場合は、お休みをする必要があ ります。また、工事による化学物質の揮 発は、病気でない子供(大人も)にとっ ても、体に良い事ではありません。</p> <p>校内の工事は長期休暇中に行い、完了 後も通学開始まで、できるだけ時間をと れるようにしてほしい。</p>	<p>中学校施設整備につきましては、各中学 校の状況により異なりますが、基本的には 受入室、小荷物昇降設備、配膳室を整備す ることとしております。</p> <p>工事の詳細は今後検討を進めてまいり ますが、夏休み期間の施工や化学物質過敏 症等に配慮した工事内容となるよう検討 を進めてまいります。</p>	ウ 参考

10	3(1)イ(ア) 取組方針2-1 適切な衛生管理環境の構築	適切な衛生管理環境構築の具体策として、「室内温度の抑制を目的とした低放射型厨房機器の導入」を追記してほしい。	<p>本基本構想・基本計画では、持続可能な給食運営等に向けて、基本的な取組等を記載しております。</p> <p>ご提案の低放射型厨房機器の導入等の具体的な設備機器等につきましては、今後の新たな共同調理場の整備事業者等の募集条件の検討の際に、参考とさせていただきます。</p>	ウ 参考
11	3(1)イ(イ) 取組方針2-2 a 食器	<p>プラスチックの食器はやめてほしい。食器にプラスチックは使用すべきではないと考えています。</p> <p>PEN食器は、比較的新しい素材です。新しいものは、危険性がわかるまでに、時間がかかることは、よくあります。試しに使ってみるなら、それは大人の仕事で、子供に使わせるものではないと思います。</p> <p>また、プラスチックの使用を減らしていこうというこの時代に、全てをプラスチックに変えていくというのには、疑問があります。CO2CO2プラン等、授業では環境問題を取り上げ、子供たちに教えています。環境を守る事は、全ての生物を守ることです。</p>	<p>PEN食器(ポリエチレンナフタレート)を主原料とする樹脂製食器)につきましては、ご意見にありますように比較的新しい素材ではありますが、国の食品安全委員会による検証評価の結果を経て、平成28年6月に厚生労働省で個別規格基準が設定されております。</p> <p>本市では、平成17年度に初めてPEN食器を導入し、順次導入を進めておりますが、多くの自治体でも学校給食の食器として採用されており、安全な食器であると考えています。</p> <p>なお、破損した食器等は製造元の事業者が回収し、再資源化等をしております。</p> <p>このような状況を踏まえまして、新たな共同調理場におきましてもPEN食器を導入することとしております。</p>	ウ 参考
12	3(1)イ(エ) a 食物アレルギーに対応する十分な体制づくり	<p>ヒヤリハットの情報は教育委員会と学校にとどめず、対応食を提供しているご家庭にも共有して頂きたい。</p> <p>ヒヤリハットは、患児やご家庭が「事故を予測する」「対応を検討する」ための大切な教材です。</p> <p>先生方や職員の皆さまが見守り力を尽くして下さっている学校給食の場において、患児自身が安全に対応力を学ぶ機会です。「速やか」でなくても良いですが、少なくとも1年に1回開示してほしい。いずれ自立する子どもたちのために、ぜひヒヤリハットを共有して下さることを願います。</p>	ご意見を踏まえまして、今後、ご家庭への情報提供について検討してまいります。	ウ 参考

13	3(1)イ(エ) a 食物アレルギーに対応する十分な体制づくり	<p>学校保健会「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(R1)には次のような記載があります。</p> <p>P40 ワンポイント 給食における食物アレルギー対応の課題</p> <p>「不必要な食事制限は、児童生徒等の健全な成長発達の妨げになるばかりでなく、給食にかかわる限られた資源(人員、設備)を本当に対応が必要な児童生徒等に集中させる意味からも防がなければなりません。」</p> <p>平塚市でも生活管理指導表を利用していますが、さらなる活用をめざし、就学前に生活管理指導表(保育所・幼稚園とも)を医療と行政と一緒に解析・チェックし、必要最小限の除去に近づけている自治体があります(さいたま市)。これは一例で、各自治体の実情に合った方法があるのだと思います。</p> <p>本案「方向性1 児童・生徒の成長を支える完全給食の実現」にも沿うかと思えます。「生活管理指導表の活用」「医療との連携」の記載を追加し、医療と連携した生活管理指導表の活用を記すのはいかがでしょうか。</p>	<p>本市では、アレルギー対応を必要とする児童の保護者からの申し出があった場合には、医師の診断により作成した「生活管理指導表」を提出していただき、それを基に学校(校長、養護教諭等)・保護者と面談の上、児童に対するアレルギー対応を決定しております。</p> <p>また、平塚市民病院の医師をオブザーバーとして迎え入れた「学校給食における食物アレルギー対策検討会」を必要に応じて開催し、医師、学校長、養護教諭、栄養士等から意見を聴取した上で、本市のアレルギー対策を決定しております。</p> <p>このことから、記載内容の変更はいたしません。引き続き「生活管理指導表の活用」及び「医療との連携」を図るとともに、今後、他自治体の事例も参考にアレルギー対応に関する取組を研究してまいります。</p>	ウ 参考
14	3(1)イ(エ) 取組方針2-4 きめ細やかなアレルギー対応	<p>「きめ細やか」には、アレルギー対応食の実施や実施以前の食物アレルギー対応委員会での話し合い等の、多くの立場の方のチームワークの意識が含まれていると拝察いたします。しかしながら、学校の食物アレルギー対応を詳しく知らない方や、これから入学する方にとっては、(過度な複雑な)「個別対応」と誤解することも考えられます。</p> <p>文科省「学校給食における食物アレルギー対応指針」(H27)に記載された学校給食における食物アレルギー対応の大原則では、6項目の内2項目に「安全性を最優先」「安全性確保」と書かれています。さらに上記大原則の「食物アレルギー対応委員会」「学校生活管理指導表」な</p>	<p>本基本構想・基本計画において示した「方向性2 安全・安心でおいしい、適温給食の実現」につきましては、安全・安心な給食提供に向けた取組を記載したものであり、アレルギー対応につきましても、その取組の方向性に含まれるべきものと考えております。</p> <p>ご意見にありますように国が策定した対応指針のなかで、安全性を最優先などの大原則が掲げられております。</p> <p>大きな方向性としては、その方針に基づいた対応となりますが、「きめ細やか」には、具体的な対応として個別対応をさすものではなく、児童・生徒、保護者に寄り添った対応を目指すものとして記載しております。</p>	ウ 参考

		<p>どの動きを含めて「組織」という単語を加えて、本基本構想・基本計画の方向性2で示される安全・安心でおいしい適温給食の実現と区別すること、さらに「きめ細やかな」を「安全性を最優先」「組織で管理する」等の文言に変更することを提案いたします。</p> <p>記載例「安全性を最優先し組織で管理するアレルギー対応」</p>	<p>そのような意味で、目指すべき取組方針内容としては、「きめ細やかなアレルギー対応」のままとし、ご意見にあるような「安全性を最優先」「組織で管理する」ということに留意し具体的な取組を進めてまいります。</p>	
15	3(1)ウ【方向性3】学校給食を活用した、更なる食育の推進	<p>食育の推進は賛成だが、現状でも中学校教員の過重労働は社会問題化しているほどであり、教員の加配等、具体的で実効ある対策をお願いしたい。</p>	<p>現場の教職員にとって過重な負担とならないよう配慮して取組を進めます。</p>	ウ 参考
16	3(1)ウ(イ) 取組方針3-2 地産地消の充実	<p>農薬、化学肥料を使わずに育てた農産物を使えるように努めてほしい。</p> <p>農水省は、有機農産物を学校給食に導入するための支援を始めました。</p> <p>*2020年9月22日 日本農業新聞</p> <p>「学給に有機農産物 農業の未来開く端緒に」より</p> <p>モデルケースは千葉県いすみ市です。</p> <p>多くの市町村が、いすみ市に話を聞いているそうです。平塚市もそのひとつとなり、農薬や化学肥料を使わずに育てた農産物を給食に使えるよう努めて下さい。今のままでは実現しません。子供にこそ安全な食材を。子供を育てるなら、平塚と思われる地にすることが大切です。</p>	<p>本市では、産地の確認や残留農薬の検査等を行い、給食食材の安全性の確保に努めております。本市は、給食の提供食数が多く、有機農産物のみで学校給食を運営することは現状難しいと考えております。</p> <p>中学校給食の開始に当たっては、さらに多くの食材を必要とすることから、品質や価格等を含めて、安全・安心な食材確保に向けて研究を進めてまいります。</p>	ウ 参考
17	3(1)エ(イ) a 環境に配慮した機能の導入	<p>環境負荷を低減することが可能な施設・整備の検討にあたり、「地産地消エネルギーの導入」を併せて検討してほしい。</p> <p>平塚市環境基本計画(平成29年度～平成38年度)において、環境に配慮した電力契約を推進しており、その一環として電力の地産地消事業を推進しています。本件において、環境に配慮した機能の導入にあたっては、エネルギーの地産</p>	<p>本基本構想・基本計画では、持続可能な給食運営等に向けて、基本的な取組等を記載しております。</p> <p>ご提案の地産地消エネルギーの導入につきましては、今後の新たな共同調理場の整備事業者等の募集の条件検討の際に、参考とさせていただきます。</p>	ウ 参考

		地消に資する機器の導入も併せて検討すべきだと考えます。		
18	3(1)エ(イ) 取組方針4 - 2 環境負荷 への配慮	<p>平塚市では全国で初めて学校給食調理場での石けん使用が実施され、子どもたちを守り環境を守ることにつなげてきました。しかし2005年度に東部学校給食共同調理場に食器洗浄機が導入されたことにより合成洗剤が使用されることになり、石けん使用が後退し、今に至っています。</p> <p>新調理場整備においては石けん対応の食洗器を導入し、石けん使用を推進することを明らかにしてください。子どもたちや調理員さんたちの健康と、環境に配慮した取組の継続を強く望みます。</p>	<p>ご意見にありますように、平成17年度(2005年度)の東部調理場への食器洗浄機の導入に当たって、石けん使用の検討をいたしました。洗浄する食器の量や洗浄時間、食器洗浄機の機能や性能、さらに食品衛生の観点から判断し、合成洗剤に切り替えた経緯がございます。</p> <p>新たな共同調理場の食器洗浄機に使用する洗剤につきましては、児童・生徒及び調理員の健康面や環境面に配慮するとともに、洗浄する食器の量や洗浄時間、また導入する食器洗浄機の機能や性能等を踏まえて検討してまいります。</p>	ウ 参考
19	3(1)エ(ウ) 取組方針4 - 3 災害時の 対応	<p>異常気象による災害発生が深刻化する中、災害時対策は喫緊の課題です。新調理場では災害発生時にライフラインが停止したとしても炊き出しが可能な設備を導入すると共に、孤立した近隣住民等のために食料提供が可能となるよう非常用の米の備蓄等を検討します、とあります。試算では整備に56億円の税金が必要となる大事業です。学校給食のみならず、市民の命や暮らしを守る施設として活用されるよう、積極的な取り組みを希望します。</p>	<p>ご意見を参考に災害発生時に求められる役割を果たせるような必要な機能等について検討を進めます。</p>	ウ 参考
20	3(1)エ(ウ) b 災害対応と 必要な機能の 導入	<p>災害対応に必要な機能として、記載の「ライフラインが停止した場合にも利用できる独立型釜等」に加え、強靱性の高い「中圧都市ガス」を利用すべきと考えます。また、中圧都市ガスを燃料とし、非常時だけでなく平常時にも安定的に継続して使用できる「ガスコージェネレーションシステム」、電源自立型空調を導入してほしい。</p>	<p>本基本構想・基本計画では、持続可能な給食運営等に向けて、基本的な取組等を記載しております。</p> <p>ご提案の「中圧都市ガス」、「ガスコージェネレーションシステム」等の具体的な導入設備等につきましては、今後の新たな共同調理場の整備事業者等の募集条件の検討の際に、参考とさせていただきます。</p>	ウ 参考

21	3(2)イ 留意点	<p>整備計画地田村9丁目が氾濫時の浸水想定区域になっていることに、驚きを禁じ得ない。浸水対策を具体的に明らかにしてもらいたい。</p>	<p>新たな共同調理場につきましては、河川の氾濫による洪水等の発生時において、調理・洗浄等の設備機器等が水没しないように必要な対策を講じる必要があります。</p> <p>具体的には、盛土による対策を現時点では検討しております。</p>	イ 反映済み
22	3(2)オ スケジュール	<p>市民団体による署名などによれば、保護者市民は一刻も早い中学校給食の実施を求めている。</p> <p>令和6年(2024年)度実施予定とあるが、可及的速やかに、前倒し実施を検討していただきたい。</p>	<p>本基本構想・基本計画に示したとおり、中学校給食の開始は令和6年度中を目指しておりますが、新たな共同調理場の整備や中学校施設の整備に必要な手続き期間、工期等も確保しながら、早期実現を図ります。</p>	ウ 参考
23	3(2)オ スケジュール	<p>中学校給食の早期実施を求めます。</p> <p>2024年度中の実施となっておりますがゴールの日を決めて計画するのではなく早急に計画をたて準備でき次第年度の途中であっても早急に給食実施をして頂きたいです。</p> <p>小学生を持つ親は中学校の給食実施を待ち望んでいます。「いつか」ではなく「早急に」です。これが実際の親の声です。</p>	<p>本基本構想・基本計画に示したとおり、中学校給食の開始は令和6年度中を目指しておりますが、新たな共同調理場の整備や中学校施設の整備に必要な手続き期間、工期等も確保しながら、早期実現を図ります。</p>	ウ 参考
24	その他	<p>中学校給食は給食か、持参弁当かを選択できるようにしてほしい。</p> <p>藤沢市や伊勢原市のように、中学校給食は、給食か、持参弁当かを選べるようにして下さい。システムが違うのだらうとは思いますが、契約期間を設ける等の工夫で、できないでしょうか。</p> <p>アレルギーがある(診断されている)訳ではないけれど、お弁当を食べているということをしてほしいのです。毎日お弁当を作るのは、大変な事ですが、お弁当であれば、食材をコントロールできます。有機農産物の問題が解決されれば給食を選択したいとも思いますが、(卵やお肉の問題は残りますが)現状のままであれば、お弁当を選びたいです。</p>	<p>小学校給食では、アレルギーや宗教上等の理由で給食が食べられない児童につきましては弁当持参を認めておりますが、全員喫食が基本となります。</p> <p>中学校給食につきましても、小学校給食と同様の運用とします。</p> <p>本市では、産地の確認や残留農薬の検査等を行い、給食食材の安全性の確保に努めております。</p> <p>中学校給食の開始に当たっては、さらに多くの食材を必要とすることから、品質や価格等を含めて、安全・安心な食材確保に向けて研究を進めてまいります。</p>	ウ 参考

25	その他	<p>40年程前より、平塚市学校給食調理場では全ての調理場で調理員さんの努力により、全国で初めて給食食器を合成洗剤でなく、石けんで洗浄するという画期的な施策が行われてきました。</p> <p>しかし、2005年東部学校給食調理場において、食洗機が導入された事に伴い、合成洗剤が使用される様になりました。</p> <p>40年来、子供達そして給食調理員の人々の身体に安全な石けん使用から合成洗剤使用に後退してしまった事は残念でしかたありません。</p> <p>私は合成洗剤使用に後退した事に気付いた時より、早急に石けん使用に戻す様にと予算要望してきました。新しい共同調理場建設においては、調理場での石けん使用を強く求めます。</p>	<p>ご意見にありますように、平成17年度(2005年度)の東部調理場への食器洗浄機の導入に当たって、石けん使用の検討をいたしました。洗浄する食器の量や洗浄時間、食器洗浄機の機能や性能、さらに食品衛生の観点から検討し、合成洗剤に切り替えた経緯がございます。</p> <p>新たな共同調理場の食器洗浄機に使用する洗剤につきましては、児童・生徒及び調理員の健康面や環境面に配慮するとともに、洗浄する食器の量や洗浄時間、また導入する食器洗浄機の機能や性能等を踏まえて検討してまいります。</p>	ウ 参考
----	-----	---	--	---------

<お問い合わせ先>

平塚市教育委員会学校教育部学校給食課

電話：0463-35-8119

電子メール：k-kyusho@city.hiratsuka.kanagawa.jp